

松 山 荘

経営方針

松山荘は、利用者の人間としての尊厳の保持を旨とし、心身共に健やかに安心・安全に生活できるような支援を提供します。

また、利用者のアセスメントを的確に行い、一人ひとりの「真に必要な支援」を提供し、その人らしい生活の実現に努めます。

地域のセーフティネット施設としては、生活困窮者、ホームレス等の支援の充実を図るとともに地域ニーズに応えられる地域貢献事業に取り組みます。

キャッチフレーズ 「応援します あなたの自立・あなたの暮らしを支えます」

■ 松山荘

[救護施設、居宅生活訓練事業、一時入所事業、自立準備ホーム、施設機能利用事業]

■ 共同生活事業所「ちふな」

[共同生活援助（介護サービス包括型）]

■ 生活介護事業所「そら」

[生活介護]

■ 相談支援事業所「まつやま」

[障害児相談支援、特定相談支援]

取り巻く環境

利用者の高齢化・障害の重度化が進み、生活全般において介護を必要とする方の割合が高くなっているため、転倒や誤嚥などの防止に努めるとともに、半数以上の利用者が精神疾患を有していること、その衝動性から予測できないトラブルに発展する可能性もあることなどから利用者の精神状態の把握に努め安心・安全な生活を提供するためのリスク管理を一層推し進める必要があります。

また、従来行っていた日中活動への参加が難しくなっている利用者がある一方、地域生活を希望する利用者もおり、個々のニーズにあった活動メニューを提供するとともに、コロナ禍が続く中でも可能な施設内外での活動の充実が求められます。

災害への備えに当たっては、台風による浸水被害を経験し、また、グループホームも洪水の浸水区域になっていることから、「高齢者等避難」の発令の都度、指定避難所への避難が必須のため、職員の入れ替わりがあっても対応できるよう実践的訓練が必要です。

松山荘及び共同生活事業所「ちふな」においては、数年間定員を充足できていない状況が続いていることから、利用者確保のための積極的活動をするとともに、定員のあり方について検討が必要な状況にあります。

事業の重点項目

1 安心・安全なサービスの提供と支援技術の向上

バイタルチェックとラウンド式相談等の相談体制を継続し、利用者一人ひとりの健康と精神状態を把握しながら、安心・安全な生活を提供します。転倒、誤嚥、服薬関係の事故防止及び対人トラブル等防止の対応としては、危険予知訓練、ロールプレイ等を通してリスクの軽減に努めます。

また、個別支援については、モニタリングの他、ケース検討会を実施することで、利用者の状態像及び支援方法を深く掘り下げ検討し支援内容を充実させるとともにアセスメント能力・個別支援計画作成能力等の支援技術の向上を図ります。

新型コロナウイルス等の感染症に対しては、感染拡大防止のための取組みのほか、蔓延時の対応についてシミュレーションを行うとともに、保健衛生委員会での検討を行います。

2 人権擁護と虐待防止の徹底

人権侵害自己チェック、虐待防止セルフチェックを継続するとともに、ロールプレイ等を取り入れた虐待防止意識の向上、支援内容等について不当な差別的取扱いや合理的配慮に欠けている事項がないか検証することなどにより利用者の積極的人権擁護に努めます。

3 災害時に強い施設づくり

「警戒レベル3（高齢者等避難）」発令により、松山荘利用者及び一部のグループホーム利用者の指定避難所への避難が必須であることから、避難訓練の実施においては移動の訓練のみならず、避難所でのシミュレーションを行うなど、災害後の対応も含めて体制の強化を図ります。

4 日中活動（訓練）の充実と強化

利用者の高齢化と障がいの重度化が進む利用者が多い一方、地域生活等を希望する利用者もおり、身体機能の維持及び安定した心身の状態を保つための活動のほか、作業活動など個々のニーズに合った活動メニューを提供するとともに、コロナ禍が続く中でも可能な施設内外での活動の充実に努めます。

5 働きがいと信頼のある職場づくり

各種ハラスメントの防止のための研修を行うほか、職員のコミュニケーションの活性化に努めるとともに、休暇の積極的取得を促し、働きがいと信頼のある職場づくりを目指します。

6 地域生活移行の推進と地域生活を支える支援及びセーフティネット機能の提供

自活訓練及び居宅生活訓練事業は、地域生活で必要とされる技能を習得できるよう

訓練内容を充実させ地域生活への移行を目指します。

地域生活を支える支援としては、共同生活事業所「ちふな」でのグループホーム事業の継続を軸とし、生活介護事業所「そら」での日中活動の場を提供します。「そら」においては送迎時の安全確保に留意します。相談支援事業所「まつやま」は、圏域の基幹相談支援事業所と連携し、地域生活の充実を支え、利用者から選択していただけるサービスの質の向上に努めます。

セーフティネット機能として、生活困窮者、DV 被害者、ホームレス等に対する一時的な生活の場を提供する施設機能利用事業（独自事業）及び刑余者等に対する自立準備ホームによる受け入れを行います。

7 経営基盤の安定と意識共有

松山荘及び関連事業所においては定員の充足及び利用率の向上を目指し、施設・事業所の積極的 PR、関係機関及び精神科病院との連携強化に努めます。なお、松山荘、共同生活事業所「ちふな」においては、ここ数年定員割れが続いている状態にあることから定員のあり方についても検討します。

また、職員の経営意識共有のため、職員会議、各事業所会議において定期的に経営状況の確認及び情報共有を図ります。